

# クリップアートを使おう

## ここで勉強すること

- クリップアートを使おう
- クリップアートの移動させよう
- 図を移動させるときのカーソルについて

## クリップアートを使おう

クリップアートは、挿入メニューの「クリップアート」から挿入できます。

クリップアートのメニューを選択すると、右のような画面が表示されます。

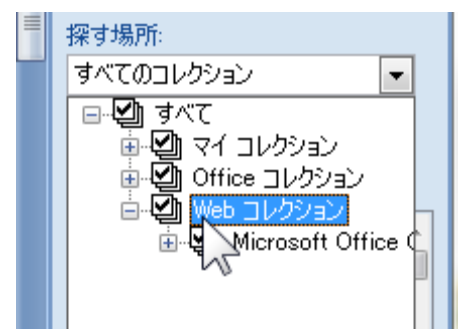
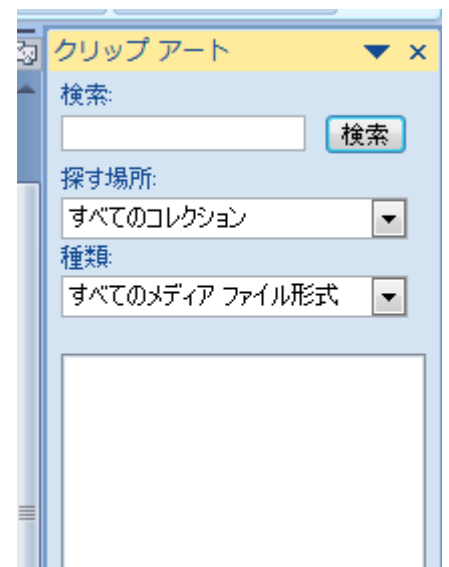
画面右の「検索」ボタンを押すと、クリップアートが下に表示されます。挿入したいクリップアートを選んでクリックすることで、クリップアートを貼り付けることができます。

画面の一番上の入力欄に使いたいクリップアートに関連する言葉(「鏡」、「人」)など)を書くことで、表示するものを絞り込むことも出来ます。

さらに、インターネットに接続している場合、「探す場所」の下のボタンをクリックして出てくる画面から「Web コレクション」を選ぶことで、さらにたくさんの候補を表示することが出来ます。

Web コレクションの選択は、Web コレクションのとなりにある口にチェックマーク(☑)をつけることです。

このチェックマークはカーソルを口の上に置きクリックをすることでつけられます。チェックが一つだけ(☑)のときは、もう一度クリックしてみてください。



## クリップアートを移動させよう

---

図形の時と同じく、「図の書式設定」から「折り返しの種類と配置」を「行内」以外に設定します。マウスでの移動のさせ方も一緒です。








「行内」を設定したままだと図が文字の一つとして扱われるため、自由な移動が出来ません。その代わりに、文字の一つとして表示したり折り返したりするので、どんな文章に合わせて使い分けます。

## 図を移動させるときのカーソルについて

---

図の周りでは、マウスの下に何があるかによって、カーソルの形が色々なものになります。カーソルの形で「今、この上でクリックやドラッグをするとどうなるか」がわかります。

カーソルの形のそのときの動作を表にまとめたので確認してください。また、図形のどこにマウスを移動させるとカーソルがその形になるのか、目印も一緒に書いておきました。

カーソルの形	目印	動作
	図の中真ん中部分	ドラッグで図を動かします。
	図の上下左右四隅にある  マーク	上下左右にマウスをドラッグすると、図の横幅/縦幅が変わります。
	図の斜め四隅にある  マーク	斜め方向にマウスをドラッグすると、図の縦横の幅が変わります。
	図の上にある  マーク	マウスをいろいろな方向にドラッグすると、図を回転させることができます。
I	図形のテキストを「書ける」部分	クリックすると図の中に文章を書けます。折り返しの種類が「背面」の時のみ図の上に表示されることがあります。